

除菌シスの有効性を確認

空間除菌・東洋熱工業・
新晃工業・NSFエンジニア

大規模コートホールで実証

噴霧ユニット製造の空間除菌（社長 森久康彦氏、本社・東京都千代田区）、空調・給排水衛生設備工事の東洋熱工業（社長 芝一治氏、本社・東京都中央区）、業務用空調機メーカーの新晃工業（社長 末永聡氏、本社・大阪府北区）、ファシリティーマネジメントなどを手掛けるNSFエ

ンゲージメント（社長 品川区）の4社は、既存空調設備に付設する大空間向け除菌シスシステムの実用化に向けた実証実験を

「Zepp Handed a (Tokyo)」(東京都大田区)で今年9月から実証実験を複数回行い、同システムの有効性を確認したとしている。実証実験は、食品添加物や殺菌料メーカーの本部三慶(※11月1日付けで「三慶」に社名変更、本社・大阪府中央区)と、コンサートホール「Zepp」を運営するZeppホールネットワーク(本社・東京都港区)の協力を得て実施。本部三慶(当時)が製造特許を有する「クロロス酸水(亜塩素酸水)を同システムに採用した。クロロス酸水は多様な細菌・ウイルス・カビに対する除菌力を有し、噴霧での除菌効果も第三者機関によって実証されている。実証実験では、クロロス酸水を空間除菌が開発した専用噴霧ユニットで0・3μm・0・5μm(マイクロ)は100万分の1)の粒子径まで微細ミ

スト化し、空気中で長く滞留させる技術を確認。同施設内1階客席を含むホールとステージ部(床面積1千23・6平方メートル、天井高11・6メートル)の既存空調設備4台に同噴霧ユニットを12台付設し、クロロス酸水を空間に行き渡らせる試験を実施した。

結果、微細ミスト、特に0・3μmの粒子径のミストが空調を介してホール全体の大空間に行き渡っていることを確認した。また空間の容積や空調設備による換気量に対する噴霧量の最適化を図った結果、換気による微細ミストの減少を相殺しながら増減を平準化させる運転条件を特定できたとしている。

4社は今後も共同で実証実験を継続する方針。同システムの製品化を目指す。